

大宅文庫ニュース

-OYA BUNKO NEWS-

開館50年記念特集号



支援の輪次々と
大宅文庫
パトロネージュ
始動から1年
収益改善へ期待大きく

雑誌文化支え半世紀

特別寄稿

松井選手は「エース」なり。
大宅壮一とは何者か。

阿川佐和子
猪瀬直樹

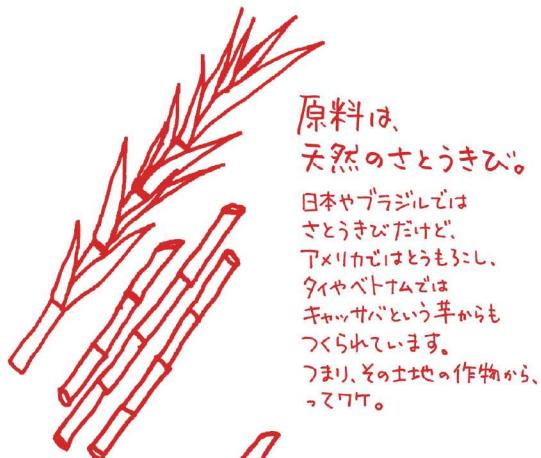
Eat Well, Live Well.



味の素。®

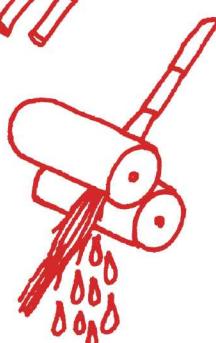


「味の素®」の詳しい情報は[こちら。](http://www.ajinomoto.co.jp/aji/)
www.ajinomoto.co.jp/aji/



原料は、
天然のさとうきび。

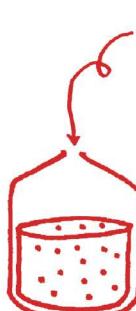
日本やブラジルでは
さとうきびだけ、
アメリカではとうもろこし、
タイやベトナムでは
キャッサバという芋からも
つくられています。
つまり、その土地の作物から、
ってわけ。



さとうきびをしづる。
しづり終った茎は
畑の肥料になりサイクル。
「味の素®」づくりは、
自然にとことん優しい
仕事もあるのだ。



しづれた汁から
糖蜜をとる。
ラム酒、という
カリブの酒もさとうきびの
糖蜜からくるんで。
知つました?



糖蜜を発酵させます。

発酵により、
糖分をグルタミン酸に
つくりえます。
大豆から醤油ができたり
牛乳からチーズをつくるのも
発酵。共通点は
「おいしいものができる」かな。



グルタミン酸ナトリウムを
粉状に。

うま味調味料「味の素®」のできあがり!

うま味調味料「味の素®」は、
グルタミン酸ナトリウムを主成分につくられています。
うま味は、甘味、酸味、塩味、苦味となるべく基本味。
日本で、コンブのだしからうま味のものが
グルタミン酸であることが発見されました。
肉や魚、トマトなどの野菜にも含まれ、食べもののおいしさを
決めるたいせつな役割を果たしているんですよ。

うま味調味料「味の素®」ができるまでについて、もう一度お話しします。

開館50年記念特集号

大宅文庫ニュース

CONTENTS

雑誌文化支え半世紀

特別寄稿

松井選手は「エース」なり。
阿川佐和子 5

大宅壮一とは何者か。
猪瀬直樹 6

語録でつづる 激動の文庫史

無限の情報 発掘へ使命感
鳥山輝 11
【新体制】評議員・理事・監事

技あり「大宅式索引」
700万件、利用者の支持厚く
八幡山索引日記 12

世相くつきり索引件数
2015年～2019年 14
人名・件名記事索引ランキング

コラム 15
計報に思う 雑誌の役割
第51回
大宅壮一ノンフィクション賞

大宅文庫 information 16
初めて利用する方のためのQ&A
イベント開催情報

始動から1年
大宅文庫
パトロネージュ
支援の輪次々と
収益改善へ期待大きく 18

表紙：在りし日の大宅壮一と昌夫人(初代
理事長)



大宅 映子
特別寄稿
父の死後三日目に三島由紀夫が自
決した。マスコミの人々が揃って言
ったのは、「大宅壮一が生きていた
ら何と言つたろうか?」であった。

そう、父は何か事件があると必ずコ
メントを求められ、その
言に大方の人がそうか：
と合点する、そんな力を
持つ評論家であった。

その原点は中学退学に

今年は大宅壮一が亡くなつて五十
年。財団法人大宅壮一文庫が出来て
五十年目にもあたる。

父の死後三日目に三島由紀夫が自
決した。マスコミの人々が揃って言
ったのは、「大宅壮一が生きていた
ら何と言つたろうか?」であった。

その原点は中学退学に

大宅壮一文庫理事長
大宅 映子

ある。大阪の醤油醸造業に生まれ、
当然そのまま商売をやると思つてい
た彼は、頼りにならない父や兄の代
わりに、どんどん傾く醤油の製造か
ら販売、集金までやりながら中学に
通つた。ちょうど世の中、米騒動な
どが起こり、左翼思想に染まつた父
は、学校から危険人物とされるや自
主退学し、難関を突破して三高から
東大へ。しかし大学は中退してジャ
ーナリストとして活動を始めた。

肩書だの名誉など不要、『雑草』

のようになつたからだと思つ
た。大宅文庫も立ち上げて資料室を「雑
草文庫」と呼んだ。

金ピカの背表紙の高価な本を集め

るのではない。読み終わつたら網棚
に捨てられてしまふ雑誌や週刊誌に

こそ人々の生活、人生が詰まつてい
るのだ。

それも集めただけではダメだ。必
要な時に引き出せねばと、独特の検
索システムを編み出した。いわばグ
ーグルである。彼の造語が皆に受け
入れられたのも、商売の体験をもと
に、消費者の側に立つマーケティン
グのセンスがあつたからだと思う。

彼のエッセンスをインターネット
の時代に合うように再構築して、多
くの皆様に楽しく活用していただけ
るよう努力したいと思つております。

雑草譜

父の魂活用へ再構築

文春新書

阿川佐和子

作家・エッセイスト

心をひらく35のヒント

●定価(本体800円+税)
電子書籍も発売中

170万部 突破!

問 聞 力



1000人にインタビューした会話術の達人が
コミュニケーションの極意を教えます!

「質問の柱は三本、で
婚活に挑戦します」

(27歳女性)

「実践的な内容なので、
営業にとても役立ってます」

(36歳男性・営業マン)

読者からの
反響続々

「面白かった!
私にも真似できるかも」

(49歳・二児の母)

「阿川さんがとうとう
『企業秘密』を明かしてくれた!」

(38歳女性・フリーアナウンサー)

特別寄稿

阿川佐和子

1953年東京生まれ。エッセイスト、小説家、インタビュアーとして幅広く活躍。『ああ言えばこう食う』(檀ふみとの共著、集英社)で講談社エッセイ賞など受賞多数。



©柄木 功

松井選手は「エース」なり。

立花隆氏の真似をするわけではないけれど、もしも大宅壯一文庫がこの世に存在していなかつたら、今の私はいなかつた。生きてはいたでしょうが、これほど長くインタビュアーの仕事を続けることはできなかつたと思う。

週刊文春の対談連載を開始したのが一九九三年の四月(掲載は五月六日、十三日合併号)である。いつも本番を迎える前に、編集部から対談相手の資料が送られてくる。ゲストの仕事内容によっては映像資料や音声資料、書籍なども入ってきているが、主たるもののは記事資料である。かつてそのゲストが雑誌や新聞の取材を受け、どんな発言をしているか。それらを事前に知つておくためには大宅壯一文庫にお頼りするしかない。そんな古い雑誌記事をすべて保管しているところは大宅壯一文庫以外ないのである。

これほど貴重な雑誌図書館の存在は、一般の人にはあまり認知されていない。しかし、メディアで仕事をする人間でこの図書館のことを知らない者はいないだろう。

「とりあえず大宅文庫から資料を取り寄せよう」

取材、あるいはインタビューを企画したとき、この台詞は最初の号令のようなものである。かく言う私もインタビュアー初心者の

頃は、この資料がはたしてどこから届いたのかわからぬまま受け取っていた。しかも連載担当者は、聞き手としての私の能力によほど不安を抱いていたらしく、最初の頃、手渡された雑誌のコピー資料の分量が大きな紙袋二つになつたこともある。

実際、私は何も知らなかつた。経済、政治はもとより、スポーツ、芸能、芸術、文芸(小説家の娘のくせにね)の、どの分野においても、「あ、その人(分野)についてはだいたい理解しています」と答えられるものを一つとして持ち合わせていなかつた。

たとえば、野村克也監督にインタビューをすることが決まつたとき、「ヤクルトつて、パ・リーグ? セ・リーグ?」と担当者にさりげなく質問したら、彼が「そこから教えるのですか……」と青ざめた「担当者絶句事件」というのを起こしたぐらいだ。あるいは、松井秀喜さんが巨人軍の新人選手だった頃、高校時代の話になり、「好きになつた女の子がライバル校の野球部エースの彼女だったので、これはかなわないと思ってあきらめた」というエピソードを語つてくださつたの井さんだつてエースのくせに!」

からかつたら、「いえ、僕はエースではありません」「ご謙遜を。立派なエー

スだったでしょう」

ニッコリ笑つて苦笑いを返された。あ

とで聞いたらエースとは投手のみに使う言葉だという。えつ、そうなの?

私はてつきり、スター選手のことを使って「エース」と呼ぶのだと思つていた。

まあ、そんなことはさておいて、対談の担当編集者はいつもヒヤヒヤしていたのだ。大量の資料を受け取つたのはいいけれど、活字を読むことが激しく遅い私はいつも、与えられた資料を読み切らないまま、対談に臨むことが多かつた。

「よし、徹夜で読むぞ!」と意気込んで答えられるものを一つとして持ち合わせていなかつた。

「資料、ちゃんと読んできましたか?」学校の先生のように私に問いかける担当者に向かい、「うーんと、三分のいくらいは……」

そう答えるたびに心苦しくなる。これからインタビューをするゲストに対しても、この資料を用意してくれた担当者に対する態度も、そして注文に応じ丹念に雑誌を書庫から探し出し、コピー機の前で何時間もかけて写しを取り、封書にして配送してくださつた大宅文庫のスタッフの方に對しても……。

感謝と陳謝の気持が積もり積もつて、私はこのたび大宅文庫の評議員の役を受けざるをえなくなつた。創立五十年の苦労の末に、せめてもの恩返しができるよう、務めます。

特別寄稿

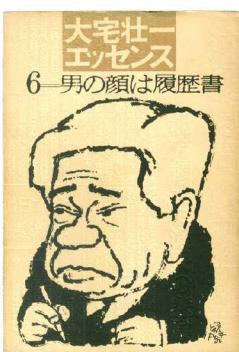
大宅壮一とは何者か。

猪瀬 直樹

きた。

大宅壮一の年齢は数えやすい。一九〇〇年(明治33年)生まれだから。亡くなつたのは一九七〇年(昭和45年)十一月二十二日である。七十歳だった。四十五歳の三島由紀夫が自決したのは三日後、世間の話題はたちまち華々しい死にざまのほうへと移つてしまふ。

僕は『ペルソナ三島由紀夫伝』を書いた。その後、同じ中学へ通う大宅壮一と川端康成の二人の投稿少年が成長する姿を『マガジン青春譜』としてまとめた。昭和前期の狭間を埋めるため、つぎに『ピカレスク太宰治伝』を書いた。登場人物は重なつて、毒舌の大宅壮一が奇妙な人たちで出没する。三十歳ぐらいのころ同世代の井伏鱒二をつかまえ「歳をとると婆さん顔になる顔つきだ」と言い放つた。実際に井伏は婆さん顔になつた。「男の顔は履歴書である」は大宅の名言で、ついでながらこれに加え作者不詳の「女の顔は請求書である」などの派生語がでは請求書であるなど



『男の顔は履歴書』
(1976年初版・講談社)



1946年長野県生まれ。作家。『ミカドの肖像』で大宅壮一ノンフィクション賞受賞。東京都知事1期。東大大学院人文社会系研究科客員教授など歴任。

知識人の頭にどれほど情報が詰まつていようが、目利きであるとはかぎらない。却つてその知識によつて眼が曇ることがある。

壮一青年はマルクスボーキになつてみたが、どうもしつくりこない。最初から違和感を覚えた。だが評論家稼業は左翼的なポーズのほうが商売になつた。そのうちに時代の流行思想は変わつた。ファシズムの時代になると、知識人はみなそちの方角へ走つた。

四十歳を過ぎると戦争がはじまた。陸軍宣伝班の仕事でインドネシアに派遣された。当時の文士はみな戦地へ行かされた。二年後に帰国した大宅は何を思つたのか世田谷・幡山の現在の大宅文庫が建つてゐる自宅とその一帯の農地で淡淡と農作業に従事する。

戦争が終わつた。すでに四十五歳、中年である。弾圧されていた共産党が復活して知識人の人気をさらつてゐる。マルクス主義というよりソ連派、そしてアメリカのデモクラシー、二つの流行思想が花形だつた。だが流行思想の喧騒に背を向けて、ペンを握らず泥まみれになつて畑を耕していた。

質屋には貴金属や骨董品だけでなくあらゆる質草が持ち込まれる。真贋を見極め値段をつけなければいけない。夕刻、仕事が終わるや否や、番頭や丁稚が車座になつて、一種の



猪瀬氏が大宅壮一と川端康成の青春時代を著した『マガジン青春譜』(98年初版・小学館)

化」と言つてみたり、その一方で電波媒体が活字を追い越すだろうと予

人格」ではない。「非常に強い個性」と人格を必要とするのだ。でないとすぐ、強そうな“思想”にひきずりこまれ、その中に溺れてしまう』『無思想人宣言』)と書いた。

テレビの俗悪振りを「一億総白痴化」と言つてみたり、その一方で電波媒体が活字を追い越すだろうと予想され、船来思想の帽子を被つた人が行列、すなわちメディアの決まりきった論調を皮肉つた。時計でも万年筆でも、そして思想でも、時代遅れを心配せずにいる秘訣は「私のように無印のものをもつこと」だ。ただし「無思想」は「無個性」「無人格」ではない。「非常に強い個性」と人格を必要とするのだ。でないとすぐ、強そうな“思想”にひきずりこまれ、その中に溺れてしまう』『無思想人宣言』)と書いた。

死後、資料室は大宅文庫として開放された。ライフワークは成らなかつたが執念のたまものがこうして残された。なによりも先駆的な業績は雑誌記事の検索システムだった。

インターネットの時代、ヤフーやグーグルをはじめとする検索サイトが普及するが、すでにその発想は日本の大宅により具現化されていたのである。

大宅は六十三歳でライフワーク『炎は流れる』の執筆にとりかかる。日本の近代の成り立ちを幕末から論じはじめる手筈であった。取材や講演で地方に行くと必ず古書店を漁りミカン箱やリンゴ箱に資料をため込んで送った。東京でも古書展があればありつけの資金で古本・古雑誌を買い集めた。資料整理のカード連載は身体衰弱のため一年十カ月で中断された。

測して口舌の影響力を「クチコミ」と表現したり、オリジナルな造語で現象を分析しようとした。死んだ資料でなく生きて動いている現実を相手にした。国会図書館にない雑誌を蒐集したのもそのためだった。

大宅は六十三歳でライフワーク『炎は流れる』の執筆にとりかかる。日本の近代の成り立ちを幕末から論じはじめる手筈であった。取材や講演で地方に行くと必ず古書店を漁りミカン箱やリンゴ箱に資料をため込んで送った。東京でも古書展があればありつけの資金で古本・古雑誌を買い集めた。資料整理のカード連載は身体衰弱のため一年十カ月で中断された。

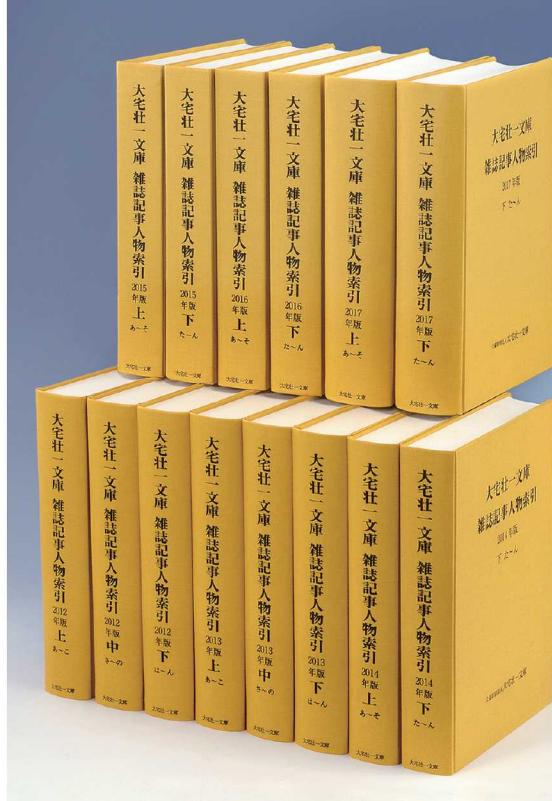
雑誌記事で読む人物動向

大宅壮一文庫 雑誌記事人物索引

著編／公益財団法人 大宅壮一文庫

2018年版	A4・上製本・2分冊	セット定価(本体96,000円+税)
2017年版	A4・上製本・2分冊	セット定価(本体96,000円+税)
2016年版	A4・上製本・2分冊	セット定価(本体96,000円+税)
2015年版	A4・上製本・2分冊	セット定価(本体96,000円+税)
2014年版	A4・上製本・2分冊	セット定価(本体96,000円+税)
2013年版	A4・上製本・3分冊	セット定価(本体126,000円+税)
2012年版	A4・上製本・3分冊	セット定価(本体126,000円+税)
2011年版	A4・上製本・3分冊	セット定価(本体126,000円+税)
2010年版	A4・上製本・3分冊	セット定価(本体126,000円+税)

※この商品はオンデマンド商品です(受注後、制作・納品いたします)。



販売代理店／日外アソシエーツ

T 140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 鈴中ビル大森アネックス
TEL.(03)3763-5241 FAX.(03)3764-0845
E-mail:sales@nichigai.co.jp http://www.nichigai.co.jp/



しぶりたて生しょうゆ
いつでも新鮮®

「生しょうゆ」の「生」って何?

つて思つてたけど、そうか、これなんだあ。
フレッシュな味わいに、素材がぐんと引きたつ感じ。

その秘密は、火入れをしない非加熱製法から生まれた

鮮やかな色、おだやかな香り、さらりとしつつ豊かなうまみ。

そして、開けてからも鮮度をキープする、やわらか密封ボトル。

一滴ずつ使って、最後の一滴まで新鮮。

いつもの料理がほら、ひとつ上の味になる。



[しぶりたて生](#)

[検索](#)

キッコーマンお客様相談センター
0120-120-358(月~金曜日9:00~17:00祝日を除く)

あ、しぶりたて。
が、いつでも新鮮。

kikkoman
おいしい記憶をつくりたい。

日本がおいしくなるワイン。



MANNS WINES

徹底したこだわり

「ソラリス」シリーズは、国産（長野県・山梨県）ぶどうのみを原料として、ぶどう栽培から醸造まで徹底してこだわり、造りあげる日本ワインです。勝沼と小諸、二つのワイナリーで醸造からびん詰めまで一貫して行い、出荷されます。（ワイナリー元詰・蔵出し）

*一部商品を除きます。

徹底した温度管理

ワインは、専用の定温倉庫で15度前後に保って保管し、出荷の際はクール便で配送。お客様へお届けするまで徹底した温度管理を行っています。



世界の銘醸に肩を並べる 日本ワインを目指す。 マンズワイン「ソラリス」シリーズ

※SOLARIS<ソラリス>とは、
ラテン語で「太陽の」という意味。
陽光をたっぷり浴びて育つ良質の葡萄だけを
使うというマンズワインの思いをこめた言葉です。

kikkoman

飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒は楽しく適量で。のんだあとはリサイクル。

雑誌文化支え半世紀



大宅文庫の書庫
80万冊を所蔵する



1971年の世相 大卒
初任給は4万8千円、カラーテレビの普及率が42%。「nonono」が創刊されたほか、「講談社文庫ブーム」が起きた。

文庫は、大宅壮一が1970(昭和45)年11月に70歳で天命を全うした翌71年5月、出版各社を始めとする各界の支援を受け、国内

人間の欲望、術策、タメ息の宝庫



多くのジャーナリストの役に立つように

大宅壮一は晩年まで雑誌の収集に心血を注いだ。「雑草文庫」と称した当時でも書籍を含む蔵書は20万冊に及び、将来の使途について遺したのが「限られた1社乃至個人に譲ることなく」に続くこの言葉だった。

初めての雑誌専門図書館として財団法人の認可を受けた開館した。初代理事長は夫人の大宅昌だった。

大宅は生前、社会を痛烈な評論で裁断し、「マスコミの帝王」の名をほしいままにしていました。勢い、文庫の一般への開放は注目を集め、マスコミ各社が報道。

語録でつづる激動の文庫史

世田谷区八幡山)は今年、開館から50年目を迎えました。明治期からの膨大な雑誌資料を広く提供し、日本のジャーナリズムの発展に貢献を続けて半世紀。雑誌動の歴史を振り返ります。(肩書きは当時)

大宅文庫

50th history

1944年	大宅壮一、東京・八幡山に居を定める
1951年	資料室(雑草文庫)創設
1956年	大宅式分類法による資料の整理開始
1970年	大宅壮一死去(享年70)
1971年	財団法人大宅文庫設立。大宅昌理事長就任
1974年	立花隆氏が大宅文庫所蔵資料を利用して書いた「田中角栄研究」を文藝春秋に発表
1978年	「大宅壮一文庫」に改称
1982年	「第30回菊池寛賞」受賞
1985年	ファクシミリ資料送信サービス開始
1995年	雑誌記事索引コンピューター検索(館内)開始
1997年	埼玉県越生町に「越生分館」建設、開館
1998年	経常収益が最高益計上
2002年	Web OYA-bunko(教育機関版)サービス開始
2006年	Web OYA-bunko(会員版)サービス開始
2007年	昌理事長死去。大宅映子が2代目理事長に就任
2010年	Web OYA-bunko(図書館版)サービス開始
2012年	内閣府から公益財団法人の認定を受け移行
2019年	支援組織「大宅文庫パトロネージュ」発足
2020年	新型コロナウィルスの感染拡大で春に臨時休館



記念ロゴでPR

皆様に支えられて
50周年
OYA SOICHI LIBRARY

大宅壮一文庫の開設50周年を記念したロゴが出来た。さわやかなスカイブルーを基調に、文庫の運営を支援してくれた方々や利用者への感謝を込めたデザイン。PR活動などで幅広く活用していく。

開館当初は、その期待を裏切るかのように1日の利用者が平均4人にも満たなかつた。一躍脚光を浴びる契機になつたのは、3年後の74年、ジャーナリスト立花隆氏が発表した「田中角栄研究」、続いて76年に発覚した「ロッキード事件」だ。

文庫には当時すでに、「三十九歳の新大臣」(週刊新潮)を始めとして570件の記事索引データが出来て

月、サンケイ新聞の記事に踊ったのが冒頭の見出しだ。「庶民の図書館」(同2月・毎日新聞)への期待と好奇がうかがわれる。

その一つで開館前の同年2月、サンケイ新聞の記事に踊ったのが冒頭の見出しだ。「庶民の図書館」(同2月・毎日新聞)への期待と好奇がうかがわれる。

田中角栄研究 立花氏が文藝春秋で発表後、金脈問題に火が付いた。大宅文庫の関連データも増え続け、人物項目「田中角栄」の記事類は現在3500件余にのぼる。

た。「大宅文庫に行けば田中角栄、児玉誉士夫、小佐野賢治の記事がすぐ引き出せる。」マスコミ陣が殺到し、文庫前の赤堤通りには新聞社やテレビ局の車が列を連ねた。立花氏は述懐する。「大宅文庫なしには『田中角栄研究』をはじめとする私の幾つかの仕事はほとんど不可能だつたろう」(82年・文庫ニュース21号)。

黄金期「大宅しよう」「大宅せねば」

苦難の黎明期を経て、大宅文庫はロッキード事件などを契機に覚醒し、やがて黄金期を迎える。開館から9年後の80年度には年間利用者が1万人を突破した。出版社・放送・新聞社をなどの関係者が全体の6割強を占め、メディア界の「情報の聖地」としての基盤を強固にして行く。

ひとたび大事件や社会的な出来事が起きると、日に100人以上が駆けつくる。関係者の間では「大空

「大宅せねば」という「合言葉」まで生まれたという。

実戦のためのソース 雑誌の「万里の長城」

「**仕事の原点**」

編集者出身の作家・小池 真理子氏は、80年の文庫ニユース第16号で「資料を集めようにも、どこへ行つたら良いのかわからなかつた私が、泣き出しそうにしていた時、先輩が教えてくれたのが大宅文庫だつた」と回顧して言う。「以来、大

宅文庫は私にとつて、すべての仕事の原点となつてい

る」

21世紀直前までは勢いを維持した。雑誌の所蔵数は、その当時で開館時の2倍をはるかに超える45万冊に増え、館施設の増強とともに

50人を数えるまでになつ

無限の情報発掘へ使命感

さながら迷宮のような大宅文庫の書庫は、活字大好き人間のワンドーランドで

は、活字大好き人間のワンドーランドである。大宅壮一特注の木製書棚は、棚板が雑誌の重みでたわみ、歩くたびに床がミシミシ音を立てる。書庫の2階から1階に通じる階段の壁には、懐かしい美人女優がほほ笑む雑誌の表紙ポスター。古い映画館の匂いがぶんぶん漂っている。この下は幾間も廊下でつながる。

大宅文庫の持ち味



社会が到来し、休刊雑誌が相次ぐとはさうがの大宅翁も予見できなかつた。しかし、それぞれの時代を生きる人間の生身の姿、本音を伝える雑誌図書館・大宅文庫がなければ、雑誌編集やテレビ番

組企画などは困ってしまうし、マスコミ文化の研究にも支障が出るだろう。著作権法のため、雑誌記事の多くがまだ電子データ化されていない現状は、大宅文庫の弱みであると同時に強みでもある。無限のオリジナル情報が眠つたままということは、ユニークで新鮮な情報发掘が期待される宝庫なのだ。

マスコミ各社の利用減で大宅文庫の経営は大変苦しい。しかし、「大宅文庫頑張れ」と多くのの方々に励まされ、パワーをいただいてきた。今後の半世紀も使命感と自信をもつて進んでいきたい。

大宅壮一文庫専務理事。元中央公論新社会長。大宅壮一東京マスコミ塾第7期。

大宅文庫は逆風が吹いたのは、その後、社会がデジタル化され、インターネット時代が訪れてからだ。ネットは居ながらにして一定の情報を提供してくれる。だが、多くの知識人はかねてから文庫のすごさを訴

え続けてきた評論家・書籍の紹介で、地晨氏は文庫を「教養のための図書室ではなく、『実戦』のためのニュース・ソース」と定義し、「情報はどれだけ多くても、整理され分類されていないと役には立たない」と鋭く説いた。

2(平成24)年、公益財団法人に移行した。しかし09(同21)年度からの赤字決算は8期連続。17、18年度は持ち直したもの。昨年度は赤字に逆戻りした。

になる」とも書いた。
大宅文庫の現在の雑誌所蔵数は80万冊を超える。先人たちの至言を、ネット万能の今こそ生かしたい。